

10月『米山月間』に寄せて

知的国際貢献にご協力を

米山奨学部門担当諮問委員

パストガバナー 金子千侍 (秩父RC)



10月は米山月間です。日本のロータリアン全員の寄附金によってなされている国際奉仕、つまり米山記念奨学会の活動をより強調、鼓舞して、ロータリアンの皆さんに認識を一層深め、ご協力を頂こうという月間です。

“米山”とは、日本に初めて東京クラブを設立した米山梅吉氏のごことで、崇高な人間愛を持って積極的な奉仕活動を行い1946年ご逝去されました。東京クラブでは氏の偉大な業績を顕彰すべく1952年米山基金を設立し、その後全国のクラブの協同事業となり、1967年文部科学省の認可を得て財団法人ロータリー米山記念奨学会と

なったのです。奨学会の目的は、日本に在留している外国人留学生に対し、国際理解と親善を深めるために奨学金を支給、援助するものです。

米山奨学会は設立以来51年、お世話した奨学生1万1,352名、96ヵ国となっております。現在毎年1,000名の奨学生を援助しています。今、大変厳しい経済状況の中、ロータリアンの皆様の浄財によって奨学会は支えられているのです。

このような日本ロータリアンの素晴らしい国際奉仕、米山奨学事業を通しての知的国際貢献、向後ともご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

素晴らしい心意気

米山奨学部門委員長

井花富男 (新狭山RC)



戦後まだ余裕のない大変貧しかったころ、米山奨学事業は東京ロータリークラブ独自の国際奉仕活動として1名の奨学生からスタートしました。その後、日本の全ロータリアンの国際奉仕活動として展開し、現在は外国人留学生1,000名に奨学金を支給しております。留学生の学業援助だけでなく、世話クラブ・カウンセラー制度を通じ国際平和と理解にも大きく寄与し、国にも大きく貢献する奨学事業となりました。これもひとえに先輩ロータリアンの大変なご努力と、皆さんの温かいご理解とご協力の結果です。

日本で学ぶ外国人留学生にとってこの奨学事

業は大変心強いものがあります。長引く不況で大変ですが、私たちは、先輩ロータリアンの「素晴らしい心意気」を引き継ぎ発展させ、後輩につないでいく責務があると思います。

10月の米山月間は、この事業の継続発展のため、皆さんにさらなるご理解と事業の意義の共有化をして頂くことが何よりも肝要と考えています。

学友、奨学生、地区役員の卓話あるいはクラブ独自のプログラム等をご企画のことと思います。この月間を機に米山奨学事業にこれまで以上の温かいご理解とご支援を頂けましたら幸いです。

10月『米山月間』に寄せて

10月の実績が大切です

米山奨学推進委員長

松田正己（所沢中央RC）



昨年の実績を見ると米山月間の10月は年間実績の17%を占めています。2桁の実績が上がる月は、10月以外では7月が15%、12月が14%、1月が13%ですが、12月と1月は普通寄附金の実績が加算されますので、10月と12月が特別に実績が上がる月と言えます。累積で見ますと7月から1月までに年間実績の73%の達成です。

こうして見てくると、前半の7ヵ月、特に10月の米山月間がいかに大切な月であるかがよく分かります。したがって10月の米山月間に実績を上げられないクラブは年間目標数字の達成が非常に難しくなると思われま

ご存知のように今年度は、会員1人当たり1万6,000円の達成をお願いしており、1人当たりの金額では昨年より厳しい数字です。地区協議会、米山クラブ委員長会議で、私がお願いしましたようにクラブの普通寄附金を年間6,000円にして頂ければ、お願い申し上げた目標数字達成には1万円×会員数の特別寄附金となります。

しかも今年度から特別寄附金は1人30万円から10万円に変わりましたので、今までよりもお願いしやすくなりました。各クラブ米山委員長さんには事情をご賢察の上、格別のご協力をぜひともお願い申し上げます。

末永い交流と信頼関係を

米山奨学学友委員長

西澤孝夫（越生毛呂RC）



現在、当地区でお世話をしている奨学生は24名（男性8名・女性16名）です。中国をはじめ、アジア諸国、メキシコからの奨学生もおります。そして、24のクラブに世話クラブとなって頂き、カウンセラーが学生生活から日常の生活に至るまで親身になって相談に乗っております。

奨学学友会の活動については、各種の行事を奨学生と学友会で協力して実施し、近年著しい成果を上げています。主な行事としては、毎年9月には米山梅吉記念館を訪れて、墓参りを兼ねた1泊2日の研修旅行をしています。

10月は米山月間にちなんで、各クラブを奨学

生たちが訪問し、卓話をしてもらっています。11月初旬にはバーベキュー大会を行い、奨学生のお国自慢の料理も披露されています。本年は特に各クラブの米山委員長さんにも参加を呼びかけて、より大勢のロータリアンに米山の理解を深めるべく計画しています。そして、来年2月には卒業生である奨学生と指導教官を交えて歓送会を開催します。

このように我々ロータリアンと奨学生、学友会の人たちの各行事を通じて培った意義のある奨学期間から、将来において細くとも末永い交流と信頼関係が生まれることを期待しています。